

グローバルCOEプログラム「コンフリクトの人文科学国際教育研究拠点」

「コンフリクトの人文科学」セミナー 第2回

「ヴァナキュラー・デモクラシーの可能性
- インド・オリッサにおけるポスト・ポストコロニアル的変容」

講師： 田辺明生先生（京都大学人文科学研究所准教授）

要旨：現代のインド・オリッサ農村社会においては、あるべき社会・政治関係はいかなるものかをめぐって、カースト間の文化政治的な交渉過程が展開している。その背景には、1992年の憲法改正にもとづく地方自治改革により、従来は周縁化されてきた低カースト民たちが、村落政治において発言権を徐々に増している状況がある。そこにおいて特に注目されるのは、カーストの意味を、ヒエラルヒーや支配構造ではなく、存在論的に平等で必要不可欠な各部分が全体のために奉仕するしくみとして再定義しようとする、下からの動きである。これを通じて、低カーストは、自らの固有のアイデンティティと尊厳を確立するだけでなく、村落政治における、多元的な社会集団の平等な参加と権益の確保を、文化的に基礎づけようとしているのだ。現代インド・オリッサ社会の変容は、平等主義的の供犠倫理と参加的民主主義とを接合しようとする、ヴァナキュラー・デモクラシーへの動きとして理解することができよう。

講師略歴：

1964年生まれ。専門は人類学・南アジア地域研究。2006年に東京大学大学院総合文化研究科で博士号取得。現在、京都大学人文科学研究所准教授。近世から現代までの南アジアにおける国家・社会の構造と変容について歴史人類学的に研究を行う。主な著作に *The State in India: Past and Present*（共編著、2006）、*Dislocating Nation-States: Globalization in Asia and Africa*（共編著、2005）、"Toward Vernacular Democracy: Moral Society and Post-postcolonial Transformation in Rural Orissa, India", *American Ethnologist* 34(3)(2007)、"Recast(e)ing Identity: Transformation of Inter-Caste Relationships in Post-Colonial Rural Orissa", *Modern Asian Studies* 40(3)(2006)、"The System of Entitlements in Eighteenth-Century Khurda, Orissa: Reconsideration of 'Caste' and 'Community' in Late Pre-Colonial India", *South Asia* 28(3)(2005)、などがある。

日時 2007年 10月 12日（金） 17:00 ~ 19:00
会場 大阪大学大学院人間科学研究科（吹田キャンパス）
東館2階 ユメヌホール （参加無料）

ユメヌホールのある東館は、万博外周道路側の新築の別館です。大阪大学大学院人間科学研究科（吹田キャンパス）への交通アクセスは <http://www.hus.osaka-u.ac.jp> をご参照下さい。

問合せ先：
大阪大学大学院人間科学研究科
人類学研究室
電話 06-6879-8085
（直）06-6877-5111（代）
E-mail globalra@hus.osaka-u.ac.jp

